

札幌開発建設部 ダム事業費等監理委員会資料 ～雨竜川ダム再生事業～

令和8年8月7日
国土交通省 北海道開発局
札幌開発建設部

1. 雨竜川ダム再生事業について
2. 事業の進捗状況について
3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象
4. 事業費の状況について
5. 事業の執行状況の透明化等について

1. 雨竜川ダム再生事業について

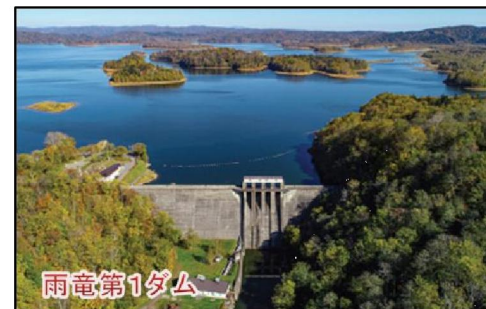
1. 雨竜川ダム再生事業について

事業の概要

雨竜川ダム再生事業は、既設の発電ダム（雨竜第1ダム・雨竜第2ダム）の利水容量のうち、一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて約2,500万m³の洪水調節容量を確保し、治水機能を付加することを目的としています。

<事業内容>

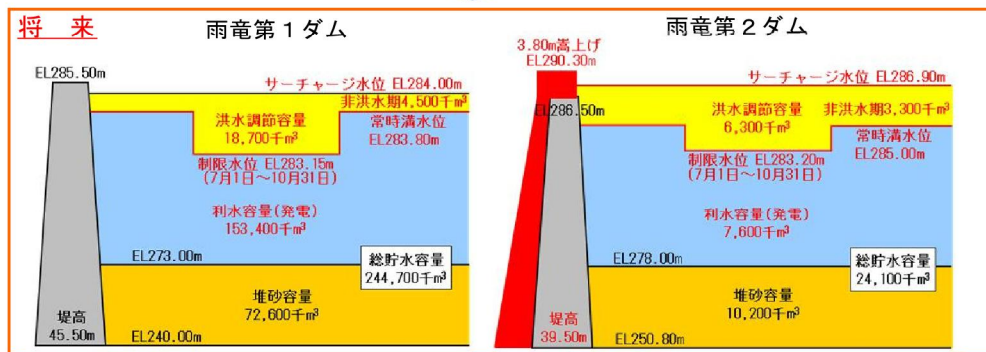
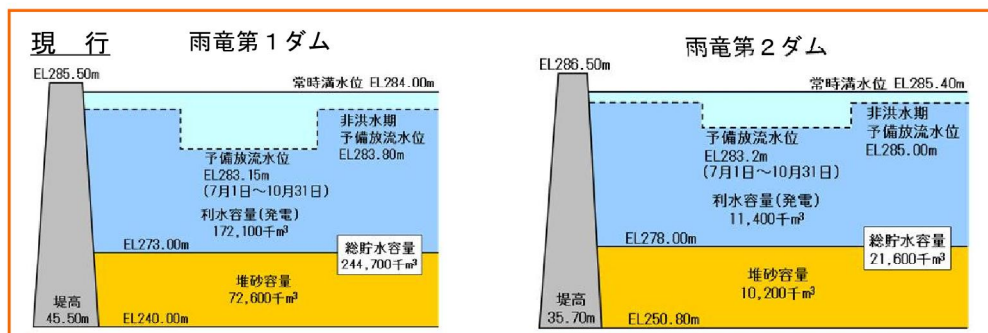
目的：洪水調節（雨竜川、石狩川の洪水防御）
 雨竜第1ダム：容量振り替え（洪水調節容量 18,700千m³）
 雨竜第2ダム：容量振り替え＋嵩上げ3.8m
 （洪水調節容量 6,300千m³）
 事業工期：平成30年度～令和15年度
 総事業費：約449億円
 執行状況：令和7年度まで 約194億円（約43%）
 令和8年度予算 約29億円



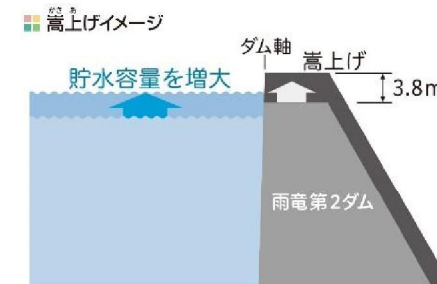
再生後諸元表

名称	型式	ダム高 (m)	堤頂長 (m)	総貯水容量 (千m ³)	有効貯水容量 (千m ³)	集水面積 (km ²)
雨竜第1ダム	重力式コンクリートダム	45.5	216.0	約244,700	約172,100	202.5
雨竜第2ダム	重力式コンクリートダム	39.5 (35.7)	255.7 (230.0)	約24,100 (約21,600)	約13,900 (約11,400)	109.7

() 再生前の諸元



雨竜第2ダム 下流面図



ダムの形状は現在設計中のため、変更する場合があります

1. 雨竜川ダム再生事業について

事業の主な経緯

昭和18年	8月	雨竜第1ダム、雨竜第2ダム完成
昭和63年	8月	停滞性前線による洪水発生（下流部で戦後最大）
平成16年	6月	「石狩川水系河川整備基本方針」策定（H16.6.15）
平成19年	5月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」策定（H19.5.9）
平成26年	8月	低気圧・前線・台風による洪水発生（整備計画目標流量を上回る・中上流部で戦後最大）
平成29年	7月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」変更（H29.7.6）「既設ダムである雨竜第1ダム・第2ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保する」と位置づけ
平成29年	8月	「雨竜川ダム再生事業」新規事業採択
平成30年	4月	「雨竜川ダム調査事業所」設置 実施計画調査着手
令和2年	8月	「雨竜川ダム再生事業」再評価
令和4年	8月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」変更（R4.8.8）、「発電容量の一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて約2,500万m ³ の洪水調節容量を確保」
令和4年	8月	「雨竜川ダム再生事業」ダム事業の新規事業採択時評価
令和5年	4月	「雨竜川ダム再生事業」建設移行
令和5年	8月	「雨竜川ダム再生事業」再評価
令和7年	3月	雨竜第2ダム堤体建設第1期工事にかかる技術協力業務契約締結
令和7年	4月	「雨竜川ダム建設事業所」移転
令和7年	12月	「雨竜第1ダム・第2ダム環境レポート」公表
令和8年	3月	「雨竜川ダム再生事業の内 雨竜第2ダム堤体建設第1期工事」契約締結

2. 事業の進捗状況について

2. 事業の進捗状況について

事業工程

- 平成30年度から実施計画調査に着手し、令和5年度より建設に着手しました。
- 雨竜第1ダムについては、令和6年度から管理設備工事に着手しました。
- 雨竜第2ダムについては、令和8年3月に本体工事の契約を締結しました。

雨竜川ダム再生事業工程表

工種	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度
調査・設計																
環境調査																
仮設工事																
本体工事																
附帯工事																
地すべり対策工																
管理設備																
試験湛水																

※設計の進捗及び関係機関等との協議の結果、工程が変更となる可能性がある。

2. 事業の進捗状況について

令和7年度の工事概要



③完成後(R7年12月撮影)



③地すべり対策工事○

②完成後(R7年11月撮影)



①完成後(R7年12月撮影)



④施工状況(R8年4月撮影)



総事業費及び残事業費

総事業費

総事業費	令和7年度まで	令和8年度予算	令和9年度以降の予算
約449億円	約194億円	約29億円	約226億円

※令和8年度予算は当初予算に基づく。

令和9年度以降の残事業費

工事費	堤体工事等	約154億円
間接経費	測量設計費等	約51億円
共通経費	工事諸費等	約21億円
計		約226億円

※端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

令和8年度予算

工事費	堤体工、堤体関連工事	約 2 2 億円
間接経費	測量設計費等	約 4 億円
共通経費	工事諸費等	約 2 億円
合計		約 2 9 億円

※令和8年度予算は当初予算に基づく。
※端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

令和8年度の工事予定について

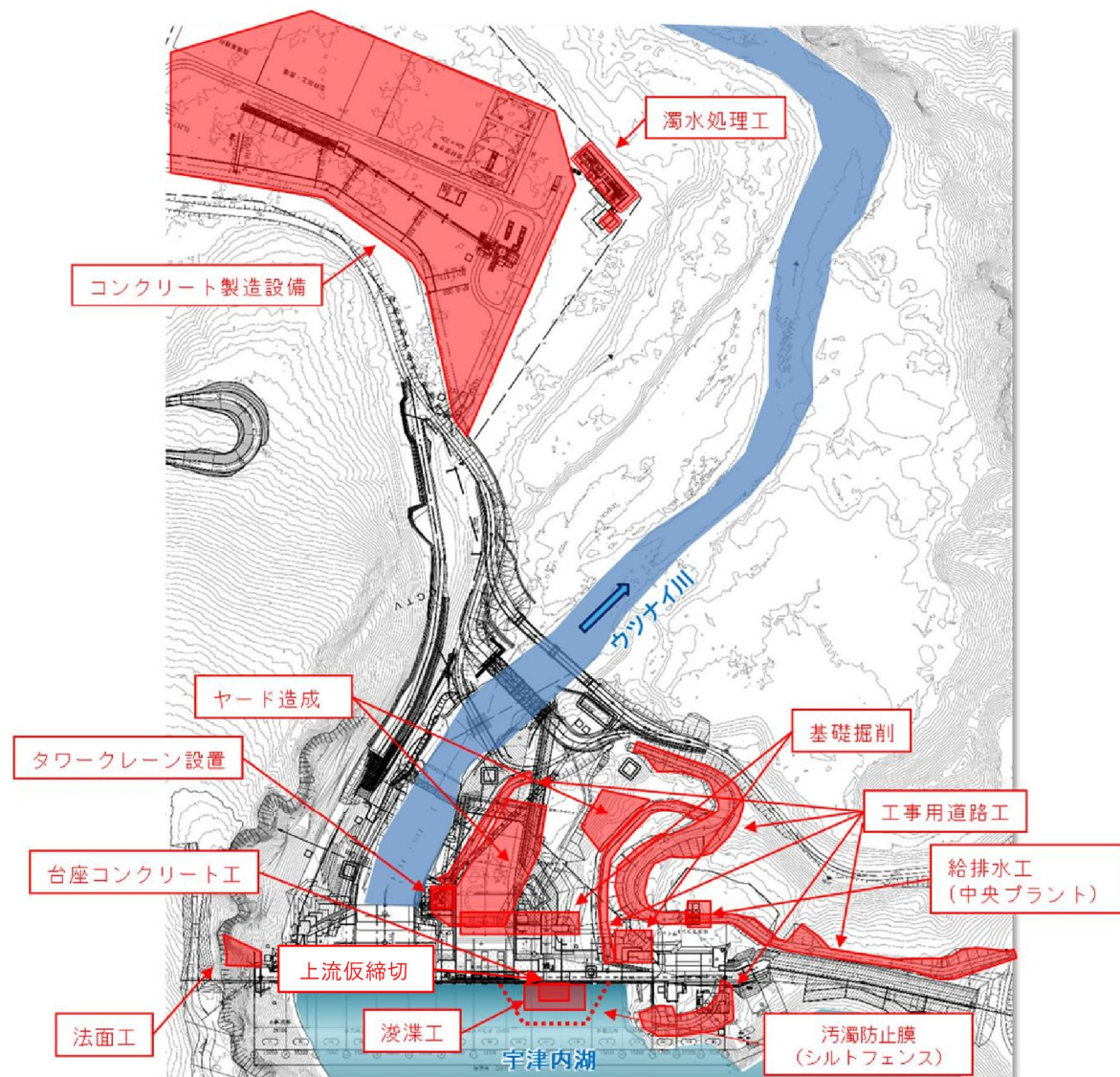
- 令和８年度は、本体工事、地すべり対策工事、管理棟新築工事を行う予定です。



2. 事業の進捗状況について

第2ダム本体工事

- 準備工事として、ダム下流の工事用道路の造成、仮設備の設置工事のほか、上流側で新設放流管のための仮設工事を実施しています。



ダム下流施工状況 (R8年7月撮影)

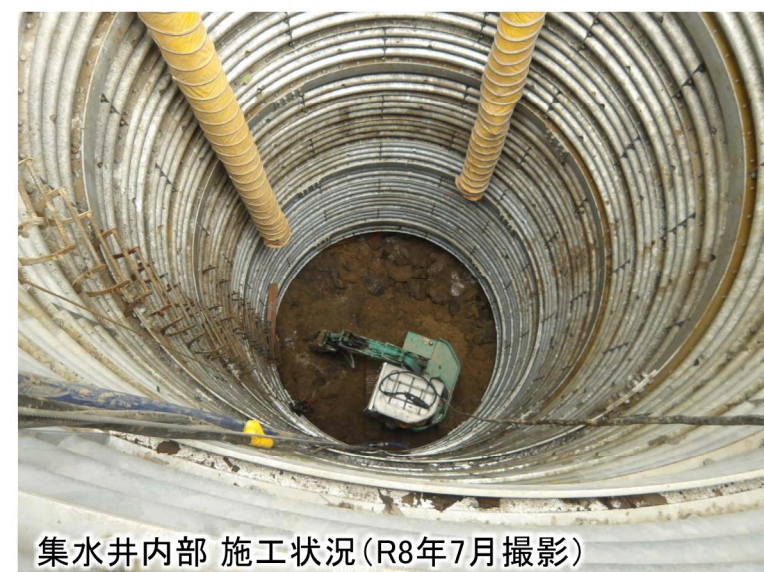
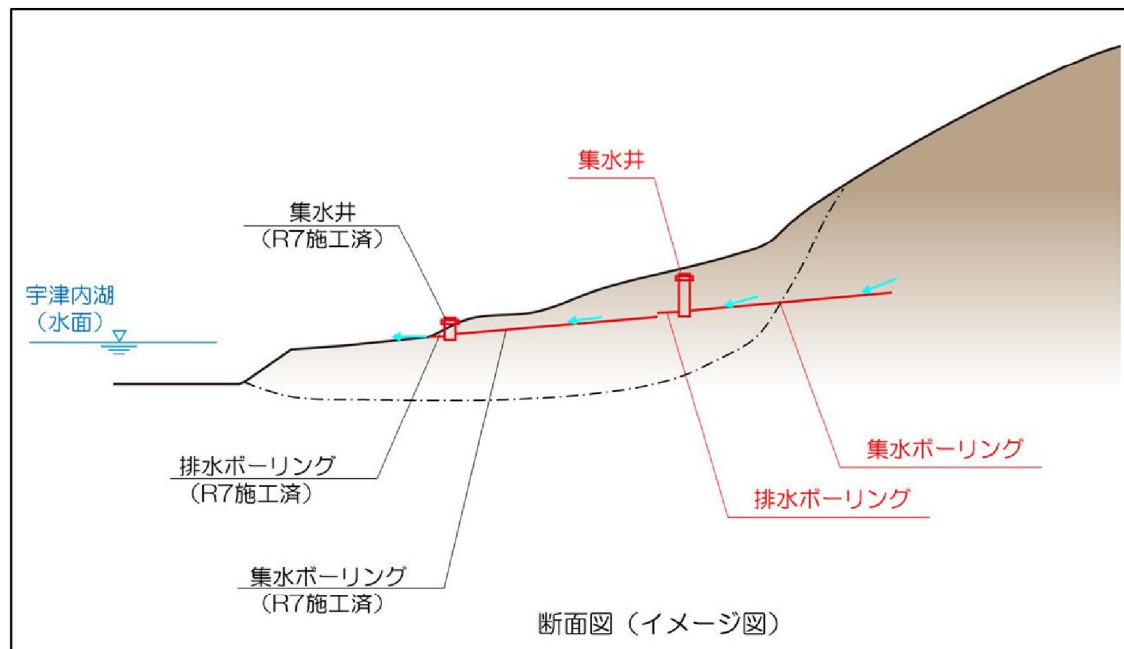


仮設備設置状況 (R8年7月撮影)

2. 事業の進捗状況について

第2ダム地すべり対策工事

- 地すべり対策として、集水井の設置、集排水ボーリングを実施しています。



2. 事業の進捗状況について 管理棟新築工事

- 雨竜第1ダムの管理棟を建築しています (R7～R8)



完成イメージ



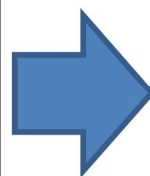
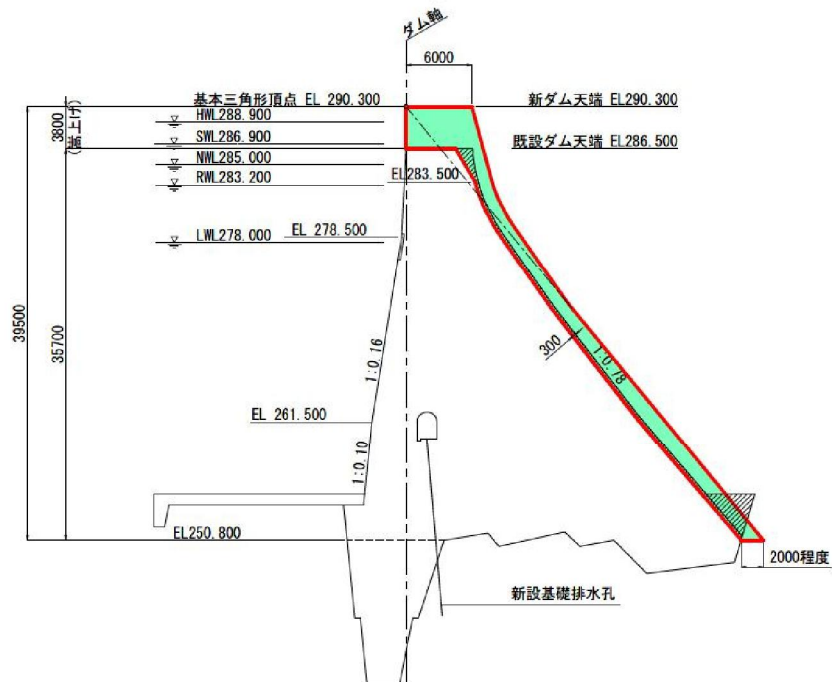
施工状況 (R8年6月撮影)

3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

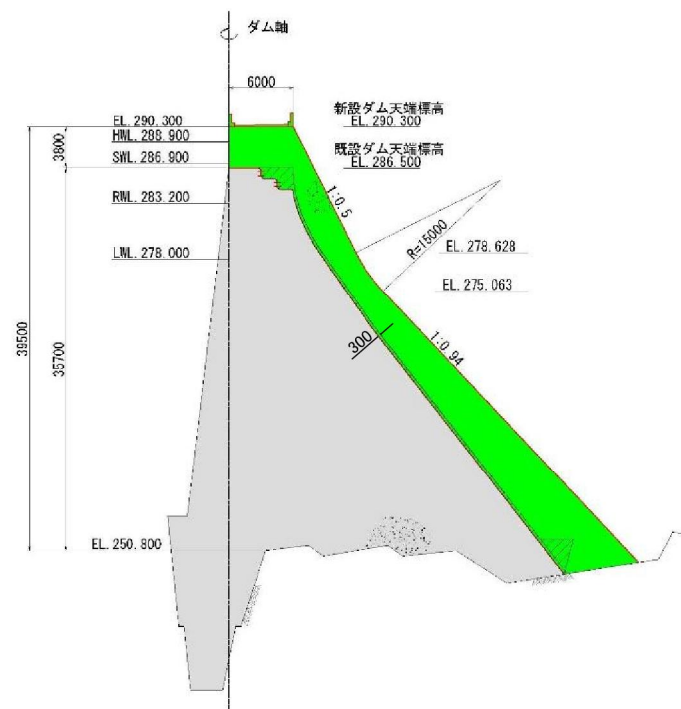
嵩上げに伴う堤体形状の変更について

- 雨竜第2ダムでは、既設堤体の分離面が当初想定していた以上に深い深度にも分布していることが判明しました。
- コンクリートの打継目付近の状況を網羅的に把握し検討を行った結果、堤体の安定性を確保するための堤体下流面勾配を変更したことにより堤体基本形状が変更されました。
- これにより、洪水吐及び減勢工等の形状変更も必要となり事業費の増額が見込まれます。
- また、上記の変更による、堤体の追加調査の費用及び設計・検討費用について増額が見込まれます。

当初（概略設計）段階の断面イメージ
[下流面勾配 1 : 0.78]



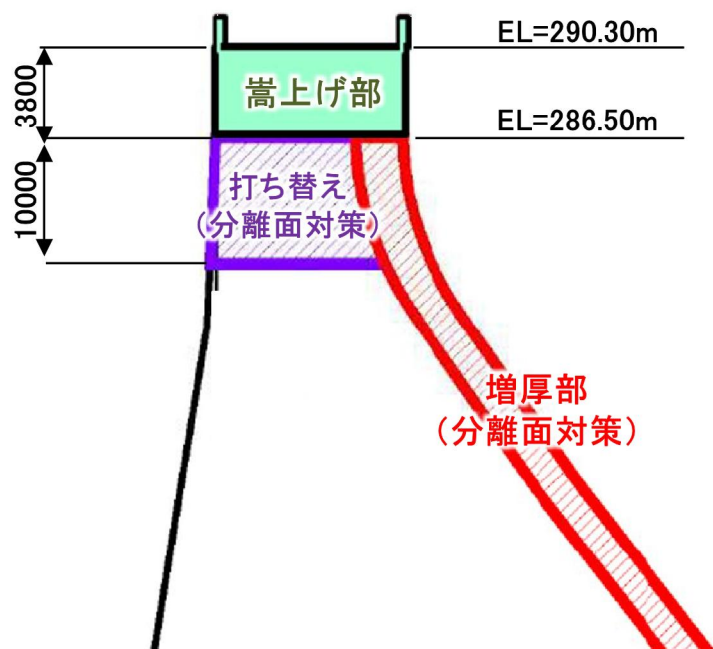
変更（実施設計）後の標準断面図
[下流面勾配 1 : 0.94]



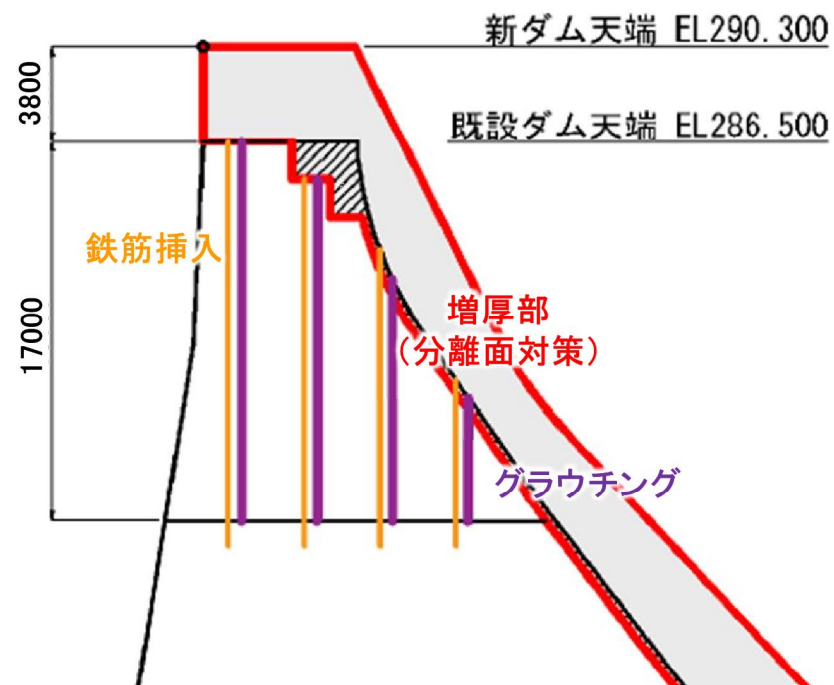
堤体分離面对策の変更について

- 既設堤体の分離面が当初想定していた以上に深い深度にも分布していることが判明したため、分離面对策の施工方法を変更しました。
- 分離面部分に掛かる浸透水（揚圧力）を抑制するため、堤頂部からコンクリート削孔を行い鉄筋挿入及びグラウチング注入を施工することから、これによる施工費用の増額が見込まれます。
- また、上記の変更による、設計・検討費用の増額が見込まれます。

当初の分離面对策イメージ
[高標高部打ち替え]



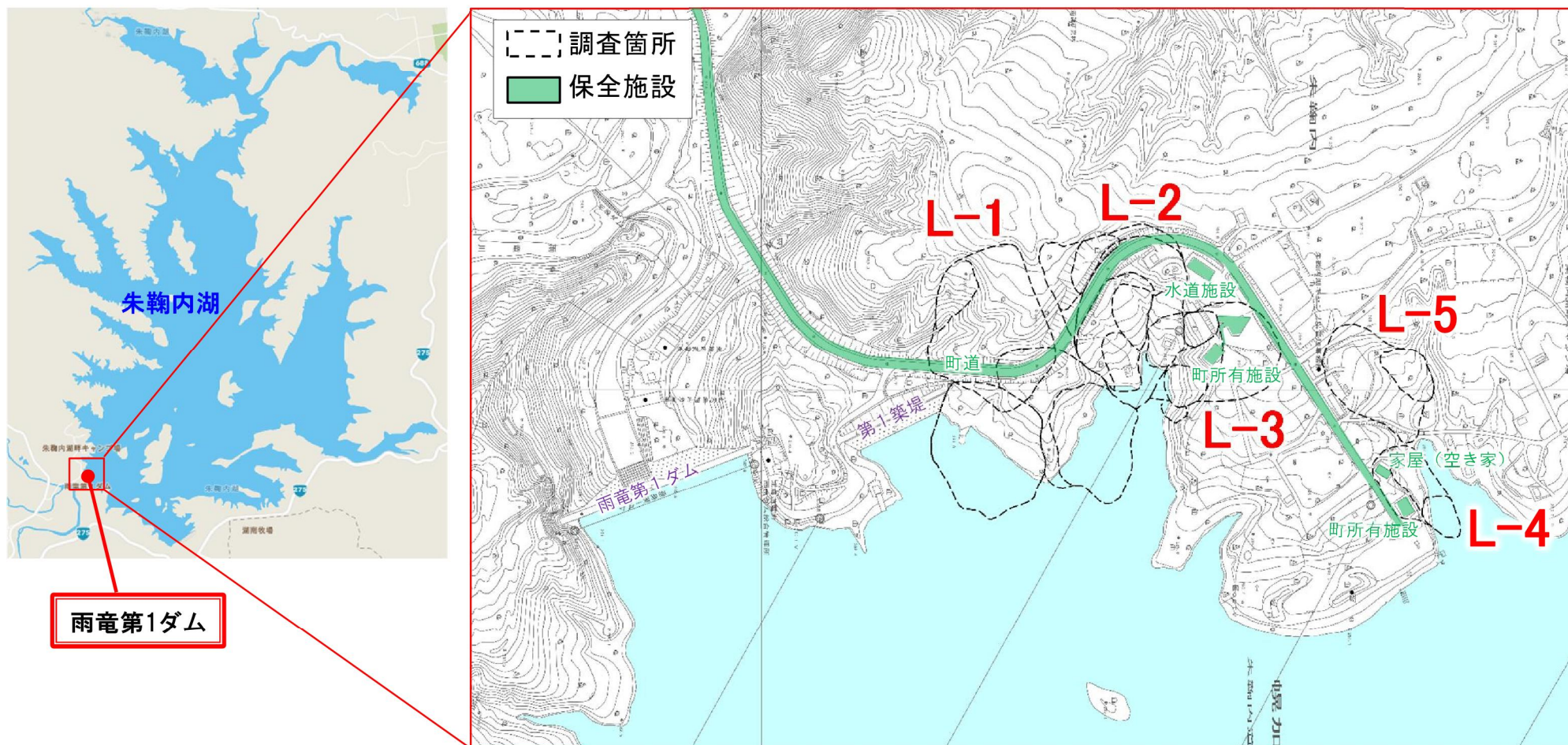
変更の分離面对策イメージ
[鉄筋挿入+グラウチング]



3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

貯水池内における地すべりについて

- 雨竜第1ダムの貯水池において、地形図・空中写真の判読、現地踏査による地すべり概査の結果から、地すべり要精査箇所が抽出されました。
- 地すべりの規模として合計79万m³程度の大規模区分に相当します。
- 国への管理移行に伴い、洪水調節による影響が考えられることから、R6年度よりボーリング調査を実施しています。
- R8年度は、先行調査していたL-1～L-3ブロックの安定解析と対策工要否の判断を行うほか、R7年度から調査を行っているL-4～L-5ブロックについて継続観測を行います。
- 上記の調査や対策工費用について増額が見込まれます。



3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

環境影響調査等の実施について

- 環境検討委員会にて調査結果を報告し、鳥類重要種に関する調査など、より詳細な調査・検討を行うよう指摘・助言を受けており、これを踏まえ、本体工事による影響が懸念される動植物等の環境調査及び影響予測・評価を実施し、令和7年12月5日に環境レポートを公表しました。
- 今後、本体工事中の環境への影響について、モニタリング調査を実施する費用の増額が見込まれます。

環境保全への取り組み

雨電川ダム再生事業における環境保全への取り組み

本事業箇所の周辺には幻の魚と呼ばれる、絶滅が危惧されている「イトウ」など、様々な動植物が生息しています。雨電第2ダムの嵩上げに伴い貯水池面積を拡大させることや周辺が道立自然公園に指定されていることから環境に配慮することが望ましいと判断しました。

環境保全 Environmental Conservation

大気環境

- 工事期間中の塵埃の発生や騒音の発生、雨水などにより周辺住民の生活に影響を及ぼす可能性があります。対策として、作業区域の周囲に防塵ネットを設置し、作業時間や作業方法の工夫により、塵埃の発生を抑制します。
- 工事期間中は、降下した雨水、騒音・振動レベルを測定し、取組み状況を確認します。

水環境

- 工事中に発生する濁りなどの濁水は、濁水処理設備によって処理します。
- 水質調査を継続して実施し、経年的な水質変化を把握するとともに、基礎データとして下流河川の水温を継続的に測定します。

動物

- 工事による定置網の設置や遺棄物の発生、周辺の樹林保全を行います。
- 作業区域の工夫や使用工法の工夫により、小動物や昆虫等の生息環境を配慮します。
- 鳥類やマダガスカルなどの生息環境を確保して行うほか、下流河川の水温変化が影響を及ぼす可能性のある動物について調査を実施し、影響の有無を確認していきます。

植物

- コシノボリやアサギなど、工事区域の周辺には、工事開始前に、移植や伐採の計画を立て、必要に応じてモニタリングを実施します。
- 工事の実施が後述となる場合は、伐採した樹木の移植を実施し、専門家の指導・助言を得ながら必要な措置を講じます。
- 移植対象種の移植が難しい場合は、種採取・移植などの代替策による対応を実施します。

生態系

- イトウ及びサケマス等の産卵場と機能を果たす工事期間を設定するとともに、流入量に対する監視体制等のモニタリング調査を実施します。
- 最少延長距離は、継続的なモニタリング調査を実施するとともに、工事による生態系等の影響を及ぼさないよう必要に応じて対策を講じます。
- ダムの上流・下流に生息する生物への影響をできるだけ回避・低減するよう、生態系への影響を最小化するよう対策を講じます。

景観・人と自然との触れ合いの活動の場

- 建設する同電第1ダム管理棟の色彩やデザインは、周辺環境に調和するように景観に配慮するとともに、わかりやすい視覚サイン等の設置により新たな視点となる屋上へのアクセスを確保します。
- 工事の実施にあたっては、土地の収容範囲を最小とします。

廃棄物

- 掘削土等の処理は、環境保全の観点から行います。
- 建設廃棄物の処理の徹底を行います。
- 月報等により廃棄物発生量の確認及び再資源化の状況の把握を行います。

今後の予定

当事業の自然環境調査により、新たな自然環境の実態や生息種の情報が明らかになりつつあります。これらの新たな知見は、豊かな自然環境の保全・創出の基礎情報となり、生物多様性を回復軌道に向かわせる「ネイチャーポジティブ」への貢献が期待されます。

再生事業の推進にあたり、今後も自然環境への負荷をできる限り回避・低減するための調査・検討・保全措置等を実施していきます。

URUY RIVER DAM CONSTRUCTION OFFICE
札幌河川建設部 雨電川ダム建設事業所

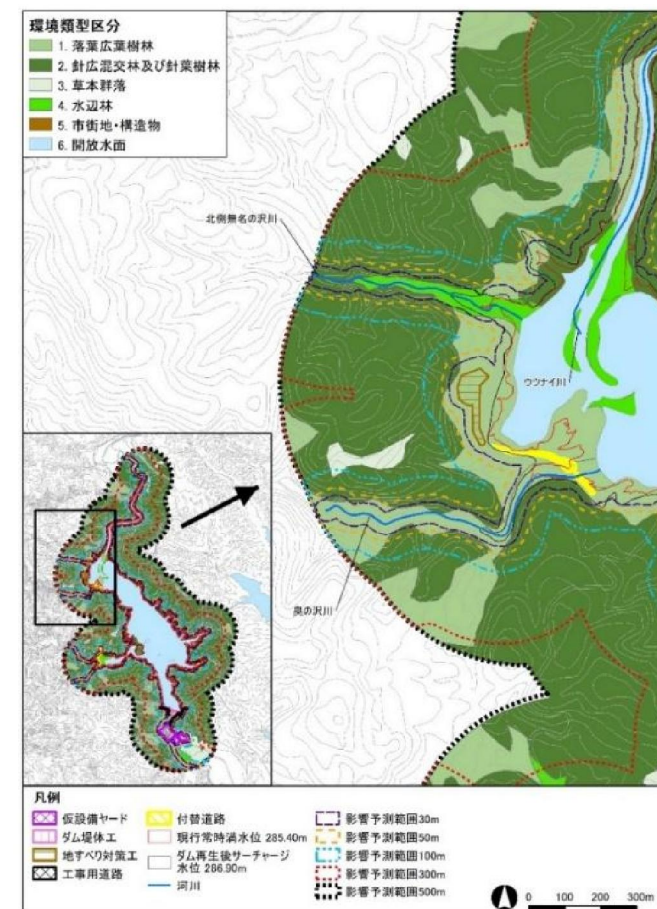
●環境調査における追加調査・検討の増



成鳥オス



成鳥メス



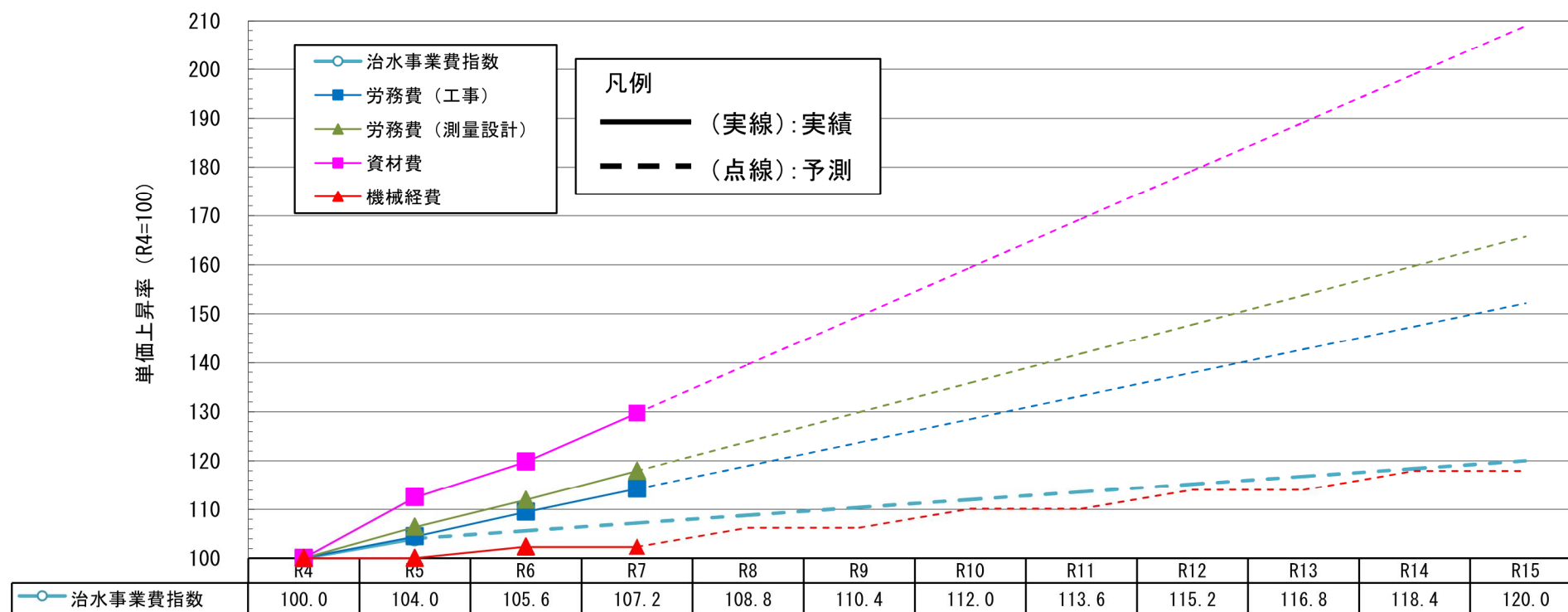
重要種鳥類(ミサゴ)の営巣

哺乳類・両生類の影響予測範囲

不確定要素について

- 事業費の増額要因である不確定要素に対して、今後も留意しながら事業を進めます。

■ 社会状況の変化による不確定要素(物価上昇)



3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

ECI方式採用の経緯

ECI方式は、技術提案に基づき選定された優先交渉権者と技術協力（設計）業務の契約を締結し、別の契約に基づき実施している設計に技術提案内容を反映させ、価格等の交渉を行い、交渉が成立した場合に施工の契約を締結するものです。

本工事は、約80年前に建設された雨竜第2ダムの既設堤体への放流管新設や嵩上げ等の施工を行うもので、事前の調査では把握しきれないダム堤体の構造に不確実な部分が想定されるため、既設ダムの機能や運用に支障を与えないよう堤体の挙動に与える影響に配慮しながら、多くの工種を確実に施工すべく工期内の確実な工事実施を考慮した施工計画を立案することが課題となっており、技術提案審査にあたっては、以下の2提案を求めました。

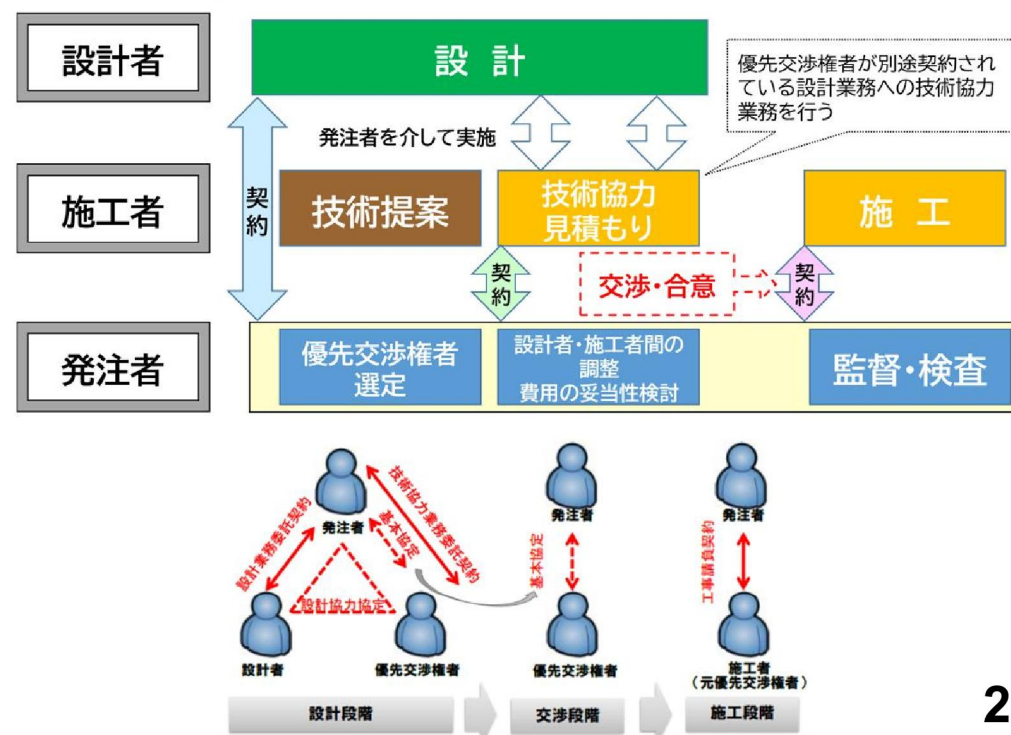
- ①コンクリート打設工程に影響を与える不確実性のある工種に関して効果的な施工計画（施工方法）の提案
- ②既設構造物の取り壊しや基礎掘削などに伴う既設堤体の挙動モニタリングと振動抑制の対策に関する提案

技術提案等の審査・評価は、北海道開発局札幌開発建設部の入札・契約手続運営委員会に諮ったうえで決定し、令和8年3月2日に優先交渉権者と工事請負契約を締結しました。

表-1 契約者決定までの主な経緯

日付	内容
令和6年7月3日	札幌開発建設部総合評価審査委員会（ECI 第1回）
令和6年7月16日	入札・契約手続運営委員会（公告内容確認）
令和6年10月9日	契約手続開始の公告
令和6年10月9日 ～令和6年12月2日	技術提案書の提出期間
令和6年12月16日 ～令和6年12月18日	技術提案書提出者に対するヒアリング
令和7年1月10日	札幌開発建設部総合評価審査委員会（ECI 第2回）
令和7年1月21日	入札・契約手続運営委員会（優先交渉権者決定）
令和7年1月31日	優先交渉権者選定通知
令和7年3月7日	基本協定締結、技術協力業務委託契約、設計協力協定締結
令和7年11月4日 ～令和7年12月12日	価格等交渉（8回）
令和7年12月18日	札幌開発建設部総合評価審査委員会（ECI 第3回）
令和8年1月6日	入札・契約手続運営委員会（契約相手方特定）
令和8年1月27日	特定通知
令和8年2月20日	見積合せ
令和8年3月2日	工事請負契約締結

【ECI(技術協力・施工タイプ)方式の導入イメージ】



ECI方式採用の成果

- 技術提案・交渉方式（ECI方式）を採用することにより、雨竜川ダム再生事業で課題となっていた、「既設ダムの機能や運用に支障を与えないよう既設堤体の挙動に与える影響に配慮しつつ、多くの工種を確実に施工すべく工期内の確実な工事实施を考慮した施工計画（施工方法）の立案」することができました。
 - ①標準案では、各工種毎の施工に応じた施工機械を用いることとしていましたが、標準案よりも大型の施工機械を用いることで、コンクリート打設・仮締切工・天端橋梁工など、複数工種に渡る合理的な施工が可能となり、全体工程の確実性を確保することができました。
 - ②堤体削孔の施工方法について、標準案では汎用性のある施工機械を用いることとしていましたが、分離面の進展防止や既設堤体と岩盤面との密着性を確保するため、かつ、堤体への振動影響を低減するため、特殊な施工機械等を用いることで堤体への振動に配慮しながら品質及び全体工程の確実性を確保することができました。
- また、不確定要素への対策を含めた効率かつ効果的な施工方法について、契約前に三者（発注者、優先交渉権者、設計者）で有効性や課題等を協議し、合意した仕様と価格で契約することにより、追加費用の発生リスクが低減されています。
- ECI方式で採用された本体工事における施工機械の大型化や施工方法の見直しなどによる、事業費への影響については、現在精査中です。

4. 事業費の状況について

本事業の状況について

- ECI方式（技術協力・施工タイプ）により発注を行った堤体建設第1期工事の優先交渉権者との協議により、工期内での確実な工事実施を考慮した施工計画を反映した上で、令和8年3月2日に契約締結しました。
- 総事業費約449億円の内、令和9年度以降の事業費は約226億円ですが、コスト縮減の一方、分離面の分布状況を考慮した堤体基本形状の変更及び分離面対策工の変更等により、事業費に影響を与える可能性があります。
- 今後新たなコスト縮減対策として、他ダムで実績のある技術等の適用を検討するとともに、今後、新たに開発される新技術についても随時、本事業における適用を検討し、引き続き、コスト縮減に努めてまいります。
- 事業費・工程に影響を与える可能性のある事象について精査を進めるとともに、今後の物価上昇等の不確定要素に注視し、事業費および工程の監理に努めます。

新規事業採択時評価(R4. 8)後のコスト縮減について

- 新規事業採択時評価後、コスト増減について精査を進めているところですが、その内、下表のとおり、約0.2億円のコスト縮減の見通しが立っています。
- 引き続き、下表の項目について、コスト縮減策を検討中です。

コスト縮減の見通しがたっているもの

項目	理由	減額
管理設備関連の見直し		
第1ダム艇庫の有効活用	既設艇庫を補修して再利用することで第1ダム艇庫の新設費用を削減	約0.2億円

コスト縮減策として検討している項目

項目	検討内容
堤体本体関連の見直し	
事業工程の厳守	ECI方式の採用により全体工程の確実性を確保し、1年延伸の可能性のあった事業工期を予定通りR15までの完了としたことによる工事等に係わる経費の削減額の算定
放流設備等の変更	水理模型実験により非常用洪水吐減勢工をそのまま流用することによる新設費用の削減 本体工事で使用する非常用洪水吐の仮締切を常用洪水吐ゲートの点検用角落としゲートに再利用することによる製作費用の削減
現場発生材の再利用	堤体工事で発生するCo殻を袋詰根固やフィルター材への再利用することによる材料費の削減
地すべり対策関連の見直し	
工法の変更	変動観測結果を踏まえた経済的な工法への変更
管理設備関連の見直し	
第2ダム艇庫の有効活用	第2ダムの管理用船舶をボートトレーラ牽引で運用することによる艇庫の削減
第2ダム仮設管理棟の変更	施工計画を見直しによる既存管理棟の代替場所を不要とした場合の建築費の削減
補償関連の見直し	
減電補償額の見直し	精緻な施工計画に基づき水運用を高度化による減電補償額の低減
工事用仮橋の再利用	本体工事に伴い設置した仮橋を新橋架設に使用することによる仮設費用の削減

5. 事業の執行状況の透明化等について

令和7年度の活動状況

●工事説明会

概要：雨竜川ダム再生事業に関連する、工事の内容や予定などを住民に説明

日時：令和7年5月14日（水）（朱鞠内地区）
5月15日（木）（幌加内地区）



工事説明会の様子

●新そば祭りでのパネル展示及びボランティア

概要：幌加内町新そば祭りでは再生事業に関するパネル展示を実施するとともに、容器回収所でのボランティアに職員全員で協力

日時：令和7年8月30日（土）、8月31日（日）



パネル展示の様子



ボランティアの様子

●ダム見学会

概要：幌加内町の関係者等と協力・連携し、ダム見学会案内を実施し、普段立ち入ることのできないダムの内部や工事中の雨竜第2ダムを案内

参加者：幌加内中学校・高校、下川小学校、美深小学校、仁世布小学校、北海学園大学、名寄市立大学、アウトドアフェス参加者など



アウトドアフェスでのダム内部の見学会案内



雨竜第2ダムでの記念撮影(幌加内高校)